

ランチオンセミナー1

主催：アストラテック株式会社

審美ゾーン・インプラントのストラテジー
Osseospeed™ の紹介と共に

東京都開業 東京歯科大学臨床教授

二階堂雅彦先生

第2日 5月19日（土） 12：30～13：30 D会場（206会議室）

ランチオンセミナー2

主催：株式会社トクヤマデンタル

新しい接着技術による象牙質知覚過敏処置と効果的な歯の固定

北海道医療大学歯学部う蝕制御治療学分野

齋藤隆史先生

第2日 5月19日（土） 12：30～13：30 E会場（207会議室）

ランチオンセミナー3

主催：株式会社ブレンベース

インプラント周囲炎へのアプローチ～インプラント周囲
炎の治療における新しい Decontamination technique ～

宮崎市開業 松井歯科医院

松井孝道先生

第2日 5月19日（土） 12：30～13：30 F会場（107会議室）

ランチオンセミナー4

主催：株式会社白鵬

ヘムコンデンタルドレッシング
—キトサンを使用した新しい止血材の応用—

東京歯科大学歯周病学講座

齋藤 淳 先生

第2日 5月19日（土） 12：30～13：30 G会場（108会議室）



二階堂雅彦 先生

略歴

1981 年 東京歯科大学卒業
1981～84 年 同歯科麻酔学教室
1997 年 タフツ大学歯学部歯周病学大学院 卒業
1997 年 アメリカ歯周病専門医
2003 年 アメリカ歯周病学ボード認定医
(Diplomate, American Board of Periodontology)
2006 年～ 東京歯科大学水道橋病院 臨床教授
2008 年～ 東京医科歯科大学歯学部歯周病学分野 非常勤講師
現在 二階堂歯科医院 (東京都中央区)
日本臨床歯周病学会指導医, 副理事長
EPIC 研修会 主宰

審美ゾーン・インプラントのストラテジー Osseospeed™ の紹介と共に

東京都開業 東京歯科大学臨床教授
二階堂雅彦

歯周病治療を志すものとして天然歯の保存に全力を尽くすのは言うまでもないことである。しかしどうしても保存不可能なケースでは、インプラント治療は補綴法の重要なオプションである。

中でも審美ゾーンのインプラント治療は、狭い骨幅の中で機能、審美を両立させるという、高いハードルを課せられた治療になる。近年のインプラントを見直そうという機運の中には、この部分での機能的、審美的に十分な結果が得られていないという問題も、多分に含まれているだろう。

インプラントの表面性状の改良は日進月歩で、アストラテック・インプラントからは昨年、Osseospeedと呼ばれる、新しい表面性状を持つインプラントが紹介された。これはフィクスチャー表面をフッ化処理することにより、より早いオッセオ・インテグレイションを可能にしたもので、上顎でも2か月程度でローディングでき、患者にとっての大きな福音となる。またアストラテック・インプラントでは、フィクスチャーとアバットメント接合部がバット・ジョイントではなく、内側から立ち上がる、このインプラント特有のマクロ・デザインを有する。これには二つの利点がある。一つはバット・ジョイント・インプラントで見られるマージナル・ボーンロスがほとんど見られないことである。二つ目はConnective Contourとも呼ばれるが、フィクスチャーとアバットメント断面が緩やかなS字状を描くことにより、多くの軟組織をこの部に獲得することができ、軟組織のティッシュ・マネージメントを有利にしている。これらの特徴は、審美ゾーンにおけるインプラント選択に際して、このシステムの大きなアドバンテージとなる。

一方、抜歯後の歯槽堤吸収は避けられない生物学的な現象である。これらをいかにコントロールし(ティッシュ・マネージメント)、また患者に対してもいわずらに侵襲を増やすことなく、最短距離での機能と審美の両立をはかる事はわれわれ臨床家のつとめである。しかしながらティッシュ・マネージメントに関しては、従来から様々な方法が紹介されているが、臨床家としてはどのような局面でどのような治療法を選択するか、逆に迷いが生じてしまう。

演者はこの治療選択の過程を容易にするために、以前に「前歯部インプラントのディシジョン・ツリー」を発表したが(1)、本講演ではそれをさらに発展し、審美ゾーンでのインプラントの骨、軟組織のバイオロジーをレビューし、それに基づく低侵襲を心がけた治療法、さらにCBCTを用いた長期経過の検証から、審美ゾーン・インプラント治療で、最適な結果を得るための治療戦略(ストラテジー)について述べていく。

1. 二階堂雅彦：前歯部インプラント治療におけるティッシュ・マネージメントの適用法を考える
ザ・クインテッセンス 27: 2757-2587, 2008



齋藤隆史 先生

略歴

1990 年 北海道医療大学歯学部卒業
1994 年 北海道医療大学大学院歯学研究科修了，博士（歯学）
1994 年 北海道医療大学歯学部助手
1995 年 ノースカロライナ大学デンタルリサーチセンター研究員
2001 年 独立行政法人産業技術総合研究所客員研究員
2001 年 北海道医療大学歯学部講師
2003 年 北海道医療大学歯学部教授
日本歯科保存学会理事，歯科保存 治療専門医，指導医
日本接着歯学会理事，接着歯科治療認定医，日本歯科審美学会評議員，認定医
日本歯科理工学会 Dental Materials Senior Adviser

新しい接着技術による象牙質知覚過敏処置と効果的な歯の固定

北海道医療大学歯学部う蝕制御治療学分野
齋藤隆史

近年の高齢社会において，オーラルヘルスプロモーションの普及により歯の寿命が延伸する一方で，歯肉退縮により露出した歯根面に知覚過敏を訴える患者が増加しています。また食生活習慣の変化に伴って最近増加している酸蝕症や咬合・ストレスの関与によって引き起こされる知覚過敏も多く認められます。象牙質知覚過敏は，歯周組織あるいはエナメル質が喪失し露出した象牙質面に熱，脱水，擦過，浸透圧，化学的刺激が加えられた際に誘発される一過性の鋭い痛みと定義され，そのメカニズムは細管内液の移動による動水力学説で説明することができます。知覚過敏を示す象牙質表面では約 75% の象牙細管が開口しているのに対し，非知覚過敏象牙質表面では約 23% の象牙細管のみが開口しており，その他の象牙細管は石灰化結晶等により閉鎖していることが多いことが報告されています。治療法としては，プラークコントロールが第一選択となりますが，その他に象牙細管の封鎖，知覚鈍麻，細管内タンパク質凝固など目的に応じてさまざまな薬剤，材料，機器が応用されています。

その中で最近，接着性シーリング・コーティング材が注目を集めています。これは，即効性，持続性のある被膜を露出象牙質表面に形成して象牙細管を確実に封鎖することにより知覚過敏を消退させることを目的としており，窩洞・支台歯形成面の保護を目的とした歯面コーティングにも応用が可能な材料です。さらに今後，細管内石灰化促進機能等を付加した多機能性バイオアクティブ材料の開発が望まれているところです。

歯周治療における動揺歯の暫間固定にも，以前から接着固定法，いわゆるエナメルボンシステムが用いられてきました。接着性レジンセメントの操作性は処置の成否に関わる重要なファクターであるといえます。また，動揺歯固定の耐久性を考えた場合，高い接着性能とともに高い靱性が要求されることは言うまでもありません。

本セミナーでは，接着性シーリング・コーティング材として 3D SR テクノロジーを開発基盤とした「トクヤマ シールドフォース プラス」，暫間固定材料として 1 液性のセルフエッチングプライマーを有する MMA 系動揺歯固定用接着材料「トクヤマ マルチボンド II フィックスフォース プラス」を例に，それらの効果的な使用法および臨床効果について解説したいと思います。



松井孝道 先生

略歴

1981 年 大阪歯科大学卒業
〃 大阪歯科大学口腔外科学第2講座
1984 年 大阪赤十字病院麻酔科中央手術部
1986 年 宮崎市開業
資格：
日本口腔インプラント学会認定インプラント専門医
日本歯周病学会認定歯周病専門医
日本歯科麻酔学会認定医
International Team for Implantology (ITI) Fellow
所属学会：
日本口腔インプラント学会 代議員
インプラント専門歯科衛生士委員会委員
日本歯周病学会，日本臨床歯周病学会，日本歯科麻酔学会
日本臨床麻酔学会，日本口腔外科学会，日本補綴歯科学会
九州インプラント研究会，宮崎インプラント研究会

インプラント周囲炎へのアプローチ ～インプラント周囲炎の治療における新しい Decontamination technique～

宮崎市開業 松井歯科医院
松井孝道

近年インプラント治療が一般に広く普及するに伴い，インプラント周囲炎への対応は避けて通れない課題となってきた。インプラント周囲炎により骨吸収をきたし，インプラント体粗造面に感染が拡大した場合，まず薬剤洗浄や抗菌療法を行い細菌数の減少をはかる。しかし，感染が長期におよび汚染が進行した状態になるとインプラント体粗造面には有機物以外に強固に付着してくる石灰化物も認められるようになる。そのためそれらの汚染物質の除去，いわゆる Decontamination がインプラント周囲炎の治療において成功への鍵となってくる。

現在までの多くの Decontamination 法が報告されているが，手法によっては治療後チタンインプラント表面に異種元素を残留させ，治療法として適当ではないものもある。その中で Sodium Carbonate を用いた Air-Powder abrasion は効果的な Decontamination 法としてよく利用されてきた。しかしインプラントの処理面を Electron Probe Micro Analyzer (EPMA) で元素分析すると，パウダーの中に研磨材として含有されているシリカがインプラント表面に強固に付着残留していた。

そこでこの Air-Powder abrasion の Decontamination 効果に着目して， β -TCP Powder を用いた Air abrasion を試みた。 β -TCP Powder は滅菌が可能で，適度な硬度を有し，かつ生体内吸収材料である。使用する β -TCP Powder は噴射効率を考慮して Powder 粒子の大きさや形状を改良した。この β -TCP Powder を用いて Air abrasion を実験的行なった結果，インプラント体粗造面の Decontamination に非常に有効で，EPMA による元素分析でも有機物および石灰化物ともにほぼ完全に除去されていた。

臨床的にもこの β -TCP air abrasion をインプラント周囲炎の治療に応用した。この結果，X 線的な骨レベルやインプラント周囲の滲出液量，歯周病関連菌の DNA テスト等の歯周病的なパラメーターにおいて改善が認められ，良好な経過を示している。

今回 β -TCP air abrasion を利用した Decontamination 法を紹介するとともに，適応症や使用上の注意点についても言及したい。



齋藤 淳 先生

略歴

1989 年	東京歯科大学卒業
1993 年	東京歯科大学大学院歯学研究科 修了 博士（歯学）
1994～96 年	米国ニューヨーク州立大学バッファロー校客員研究員
1998 年	東京歯科大学歯科保存学第二講座（現歯周病学講座）講師
1999 年	同大学非常勤講師，齋藤歯科（仙台市青葉区）勤務
2002 年	宮城高等歯科衛生士学院教務部長，東北大学歯学部非常勤講師
2009 年	東京歯科大学口腔健康臨床科学講座 講師
2011 年	東京歯科大学歯周病学講座 教授 現在に至る

ヘムコンデンタルドレッシング —キトサンを使用した新しい止血材の応用—

東京歯科大学歯周病学講座
齋藤 淳

歯周治療をはじめとする歯科臨床において，リスク回避および患者・医療者双方の負担軽減のニーズが高まっています。なかでも効果的な止血は重要なテーマです。ヘムコンデンタルドレッシングはキトサンを使用した新しい止血材です。キトサンはカニやエビなどの甲殻類から炭酸カルシウムやタンパク質を除いたキチンから抽出精製した天然物質であり，これまで手術用縫合糸や人工皮膚などの医療用素材から食品，農薬用品，化粧品など多くの分野で使用されてきました。キトサンは様々な細菌に対し抗菌作用があることも知られています。ヘムコンデンタルドレッシングの基となったHemCon[®] Bandageは，米国HemCon社が開発した止血材であり，米軍が戦場で使用し，これまで100名以上の兵士の命を救ってきたとされています。エピソードとして，本製品を送り出すためにアメリカ食品医薬品局（FDA）は異例のスピードで認可したことが知られています。日本の医療現場ではヘムコンバンデージほか6製品が既に販売，使用されています。

ヘムコンデンタルドレッシングの特徴としては，1. 素早く持続性のある止血効果，2. 生体中の凝固線溶系因子を介さない止血効果，3. 自然な凝血塊の形成，が挙げられます。作用機序は，出血面（部位）に接するとプラス電荷のキトサンに，マイナス電荷の赤血球および血小板が引き寄せられて凝固することによる止血です。本製品は，国際基準であるISO 10993「医療機器の生物学的評価」シリーズに準拠しており，生物学的安全性も検証されています。

今回，ヘムコンデンタルドレッシングの概要と歯周治療を含めた臨床応用についてご紹介させていただきます。皆様の日常臨床のお役に立てれば幸いです。

発表者・座長一覧（敬称略）

A-Z

Choi, Chi-Ho	KAP-01
In-Chul, Rhyu	韓国歯周病学会会長講演
Jung, Hyun-Yup	KAP-04
Kim, Dong-Hee	KAP-05
Lee, Jae-Mok	KAP-03
Lim, Jong-Heum	KAP-02
McClain, Pamela K.	アメリカ歯周病学会会長講演
Savitri, Irma Josefina	C-08
Suphasitroj, Wiroj	P-48
Wennström, Jan L	特別講演 2

あ

相見 礼子	衛 P-22
敖 敏	P-23
青木 章	臨床実践セミナー
秋山 智人	P-81
浅野 勝一	臨 P-22
安孫子宜光	C-19～C-21
阿部 佳織	B-02
雨森 洋貴	臨 P-09
荒木 美穂	衛 B-06～衛 B-08
飯田しのぶ	衛 P-04
葉 暢暢	P-38
五十嵐寛子	P-33
井口 一美	P-08
伊澤 有郎	P-74
石井さやか	臨 P-31
石澤 正晃	P-78
石幡 浩志	P-69
石原 裕一	臨 P-28
和泉 雄一	特別講演 1
伊藤 恵美	P-11
伊藤 公一	全員参加型・臨床シンポジウム, 韓国歯周病学会会長講演
伊東俊太郎	P-25
伊藤 弘	P-03
伊藤 雅宏	P-84

伊藤ゆかり	衛 P-20
犬伏 俊博	P-22
井上 一彦	臨 P-24
猪子 光晴	臨 P-35
井原雄一郎	臨 P-40
今井 遥香	P-54
伊山 舜吉	C-23
岩崎 和人	P-76
岩崎 剣吾	P-62
上田 幸子	衛 P-23
上田 重美	衛 P-02
上田 順子	衛 P-19
植野 琢也	P-07
鶴川 祐樹	P-71
宇部恵理香	衛 P-12
梅田 誠	C-04～C-06
蛭江 由季	衛 P-10
遠藤 大二	第 44 回若手研究者の集い
遠藤 直子	衛 B-05
大城希美子	C-06
太田 淳也	臨 P-38
大塚 秀春	P-10
岡田 萌	A-04
岡野 光夫	特別講演 1
岡松 良昌	P-36
尾川 浩一	B-01
小木曾一貴	P-45
荻田 真弓	P-34
小田 茂	歯科衛生士シンポジウム
織田 洋武	P-28

か

景山 正登	臨 P-01
笠井 宏記	臨 P-52
加塩奈津希	衛 P-01
粕山 健太	P-26
片山 明彦	臨 P-20
門 貴司	P-30
嘉藤 弘仁	P-66

加藤 まり	臨 P-49
加藤 万理	衛 B-02
加藤 佳子	C-11
兼田 英里	B-04
鎌田 要平	B-13
蒲 弘城	P-15
川瀬 知之	全員参加型・臨床シンポジウム
川津 布美	P-56
川浪 雅光	倫理委員会企画講演
河原 貴展	P-72
川邊 好弘	臨 P-08
蒲沢 文克	臨 P-51
雁瀬 朋美	P-43
神庭 光司	臨 P-36
木崎久美子	衛 B-11
橘高 瑞穂	B-05
木村 大輔	P-70
木村 浩幸	臨 P-32
北川原 聡	臨 P-54
金原留美子	臨 P-04
工藤值英子	臨 P-50
工藤 求	臨 P-06
久保田健彦	P-18
窪田 裕一	臨 P-29
小出 容子	P-39
小飼 英紀	P-16
小坂 恵一	P-13
五條堀孝廣	P-27
河野 智生	臨 P-47
後藤 純子	衛 P-09
小林 哲夫	A-05
小林 宏明	臨 P-26
小林 美登	B-09
小林 優子	歯科衛生士シンポジウム
小牧 基浩	P-67
五味 一博	A-01～A-03

さ

齋藤 淳	歯科衛生士シンポジウム, ランチョンセミナー4
斎藤 隆史	ランチョンセミナー2
斉藤 光博	A-10
坂上 竜資	A-09, A-10
阪本 貴司	P-04

櫻井 ゆか	衛 B-01
佐藤 秀一	臨 P-10
佐藤 聡	全員参加型・臨床シンポジウム
佐藤 典宏	倫理委員会企画講演
佐藤 昌美	歯科衛生士教育講演, 衛 B-09
佐藤ゆかり	衛 B-04
澤田 俊輔	C-19
賈 茹	P-51
椎葉 未来	衛 P-13
塩山 秀裕	臨 P-21
志田 哲也	臨 P-13
渋谷 俊昭	歯科衛生士教育講演
島内 英俊	C-22, C-23
清水伸太郎	P-47
清水 雅美	衛 P-17
周 黎明	P-83
城市 由紀	衛 P-18
白井 義英	A-09
白川 哲	臨 P-14
申 基喆	全員参加型・臨床シンポジウム
新 光一郎	P-44
菅原 哲夫	P-17
杉澤 幹雄	臨 P-19
杉村 逸郎	第 44 回若手研究者の集い
杉山 総子	市民公開講座
鈴木 麻美	P-86
鈴木 温子	衛 P-11
鈴木丈一郎	歯科衛生士シンポジウム, A-07
鈴木 隆雄	シンポジウム
須藤 瑞樹	C-14
須永 昌代	A-08
関 滋之	臨 P-15
関西明日香	P-35
関野 愉	P-85
関野 仁	臨 P-44
添島 正和	臨 P-05

た

高木 雅司	P-29
高崎 俊輔	C-05
高柴 正悟	学会学術賞受賞記念講演
高橋 慶壮	C-09～C-11
高橋 伸行	P-68

高橋 貫之	臨 P-48
高橋 弘行	P-61
高橋茉莉香	C-17
高橋 亮一	P-02
高山 真一	臨 P-03
高山 忠裕	臨 P-30
滝川 雅之	臨 P-37
滝口 尚	臨 P-43
滝沢 尚希	C-10
田口 裕子	C-12
田口洋一郎	P-31
武田 紘明	P-82
田島 聖士	C-13
多田 和弘	P-12
田中 昭男	C-17, C-18
田中 麗	B-07
谷下 人六	A-06
谷山 勝義	B-08
玉木 直文	P-40
田村紗恵子	P-09
田村 剛	P-14
蔡 宇	P-50
土田 智子	P-06
土屋 紀子	P-77
津徳 亮成	P-79
坪川 瑞樹	P-63
妻沼 有香	C-16
出口 眞二	A-04, A-05
寺田 裕	P-42
東 雅啓	C-07
都倉 堯明	P-55
豊田 恵	衛 P-16

な

中川 種昭	臨床実践セミナー
長澤 敏行	P-46
中澤 正絵	P-19
中島 康雄	臨 P-23
永田 俊彦	B-07, B-08
中田 智之	C-03
永田 鈴佳	衛 P-15
長野 史子	C-02
中村 悦子	衛 B-04, 衛 B-05
中村 利明	P-73

中村 美穂	C-15
仲谷 寛	A-06~A-08
永安慎太郎	B-03
中山 洋平	P-58
成田 宗隆	B-11
成石 浩司	臨 P-16
二階堂雅彦	ランチョンセミナー1
西原 達次	C-07, C-08
西村 将吾	B-10
西村 英紀	C-01~C-03
根本 英二	学会学術賞受賞記念講演, 臨 P-39
野口 和行	B-01~B-03
野村 慶雄	B-12, B-13
野村 正子	衛 B-09~衛 B-11

は

橋谷 進	臨 P-07
畑中 加珠	P-20
濱地 貴文	臨 P-46
原井 一雄	A-02
原 久美子	衛 B-10
原田 志保	P-05
原 宜興	B-04~B-06
板東 美香	A-03
東 克章	臨床実践セミナー
平塚 俊志	C-18
廣島 佑香	P-24
廣瀬 薫	衛 P-14
深谷 千絵	臨 P-41
藤井 諭	臨 P-18
船越 栄次	全員参加型・臨床シンポジウム 特別講演 2
古市 保志	C-04
古庄 寿子	C-21
細川 義隆	C-09
本郷 昌一	P-32
本城 賢一	

ま

前田 勝正	B-09~B-11
増田 勝実	臨 P-17
松井 孝道	ランチョンセミナー3
松崎 真衣	衛 P-05

松澤 澄枝	衛 P-07
松下 健二	シンポジウム
松村 浩禎	P-80
松本 崇嗣	衛 P-08
三浦 宏子	シンポジウム
三上 理沙	衛 P-21
水谷 大樹	P-57
水野 智仁	臨 P-34
宮沢 春菜	C-01
宮治 裕史	P-75
宮原 勇治	シンポジウム
宮本 泰和	全員参加型・臨床シンポジウム
村岡 宏祐	臨 P-42
村檜 悦子	臨 P-53
村上 弘	P-52
村田 裕美	臨 P-11
目黒トシ子	P-01
目々澤雅子	A-01
茂木 美保	衛 B-01～衛 B-03
森川 紗里	衛 B-07
森田十誉子	P-37
森田 学	市民公開講座

や

安川 俊之	臨 P-25
谷野 弦	P-41
八巻 恵子	臨 P-02
山口 貴央	P-53
山崎 和久	C-12, C-13
山下 純子	衛 B-08
山田 実	臨 P-12
山羽 聡子	B-06
山本 大介	C-20
山本 俊郎	P-64
山本 仁	P-59
山本 松男	C-14～C-16
山本 裕子	衛 B-03
吉江 弘正	全員参加型・臨床シンポジウム, アメリカ歯周病学会会長講演
吉川 景子	衛 P-03
吉川 沙絵	衛 B-06
吉田 圭織	衛 P-06
吉沼 直人	臨 P-27
吉橋 直弥	B-12

吉本 哲也	P-49
米田 哲	臨 P-45
米山 武義	市民公開講座

ら

呂 宗彦	C-22
------	------

わ

若林 裕之	P-21
鷺尾 薫	P-60
渡邊 昌弘	P-65
渡邊 裕司	臨 P-33

日本歯周病学会会誌 第54巻 春季特別号

平成24年4月3日 印刷

平成24年4月10日 発行

発行者 吉江弘正

発行所 特定非営利活動法人 日本歯周病学会

(財)口腔保健協会内 TEL 03 (3947) 8891

〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル

印刷所 港北出版印刷株式会社